

読響

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

シューベルトは
こうして現代に着地する
約束の日は
2000年後の今日だった

マルチな活動で注目を浴びる新時代の旗手
指揮者ノクリエイティヴ・パートナー

鈴木優人

Conductor MASATO SUZUKI

ピロードのような美しい音色を持つ世界的名匠

トランペット

マティアス・ヘフス

Trumpet MATTHIAS HÖFS

シューベルト

交響曲第4番 八短調 D417 「悲劇的」

SCHUBERT: Symphony No. 4 in G minor, D 417 "Tragic"

ベーム

トランペット協奏曲 へ短調 作品18

BÖHM: Trumpet Concerto in F minor, op. 18

ベリオ

レンダリング

～シューベルトの未完の断片を用いて～

BERIO: Rendering

読売日本交響楽団 第598回 定期演奏会
Subscription Concert No. 598

2020 **5/13** 水 19:00 サントリーホール
Wed. 13th May 2020 19:00 Suntory Hall

S¥7,600 A¥6,600 B¥5,600 C¥4,100

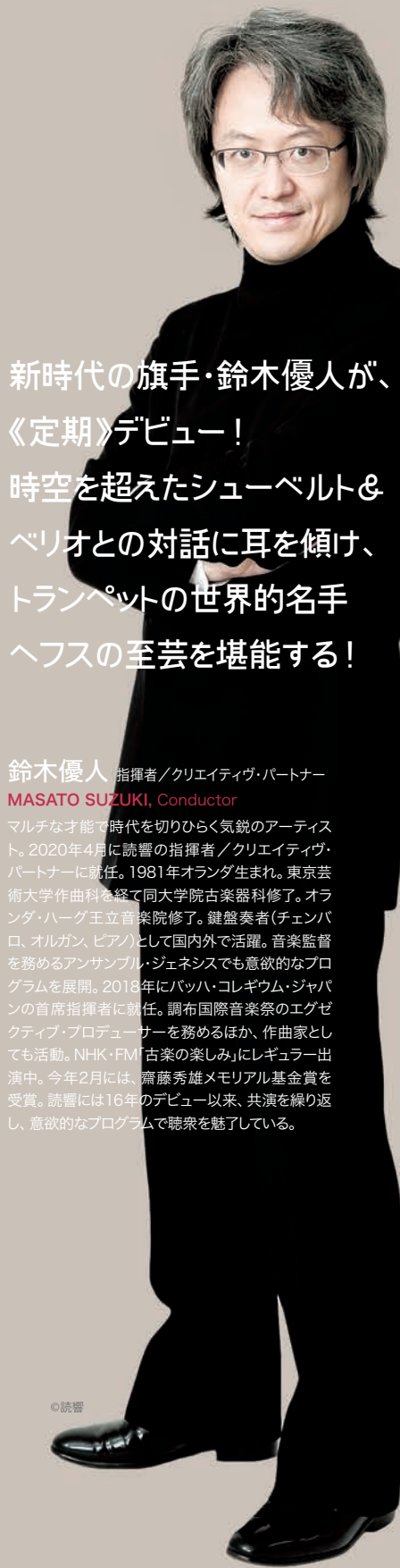
<https://yomikyoku.or.jp/>

読響チケットセンター 0570-00-4390
(10時-18時・年中無休)

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成：公益財団法人アフィニス文化財団

協力：アブラック



新時代の旗手・鈴木優人が、
《定期》デビュー！
時空を超えたシューベルト &
ベリオとの対話に耳を傾け、
トランペットの世界的名手
ヘフスの至芸を堪能する！

鈴木優人 指揮者/クリエイティブ・パートナー
MASATO SUZUKI, Conductor

マルチな才能で時代を切りひらく気鋭のアーティスト。2020年4月に読響の指揮者/クリエイティブ・パートナーに就任。1981年オランダ生まれ。東京芸術大学作曲科を経て同大学院古楽器科修了。オランダ・ハーグ王立音楽院修了。鍵盤奏者(チェンバロ、オルガン、ピアノ)として国内外で活躍。音楽監督を務めるアンサンブル・ジェネシスでも意欲的なプログラムを展開。2018年にパッサ・コレジウム・ジャパンの首席指揮者に就任。調布国際音楽祭のエグゼクティブ・プロデューサーを務めるほか、作曲家としても活動。NHK・FM「古楽の楽しみ」にレギュラー出演中。今年2月には、齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。読響には16年のデビュー以来、共演を繰り返し、意欲的なプログラムで聴衆を魅了している。

©読響

4月から新たに読響の指揮者/クリエイティブ・パートナーに就任した鈴木優人が、初めて《定期演奏会》に登場する。

1981年生まれ、鈴木優人は、鍵盤奏者や指揮者など多彩な活動で注目を浴びている。世界的指揮者・オルガン奏者である鈴木雅明を父に持ち、「バッハが音楽の原点」と語る一方で、ロマン派音楽や同時代音楽まで分け隔てなく積極的に取り組んできた。《定期》デビューに演奏するのは、ベリオがシューベルトの未完の交響曲(二長調)のスケッチをもとに作曲した「レンダリング」。1925年生まれのベリオは、



「ピアノを弾くシューベルト」1866年
グスタフ・クリムト

第二次大戦後のイタリア前衛音楽の旗手とされ、電子音楽のパイオニア的存在として知られるが、彼の音楽の原点は、オルガン奏者の父と祖父から手ほどきを受けたことだ。ここに鈴木優人との共通点を感じさせる。ベリオは、前衛的な活動を行って一方で、モンテヴェルディ、バッハらの編曲を残すなど、過去の音楽との対話を続けた。1990年初演の「レンダリング」は、シューベルトの意図を酌んだ「修復」を試みたもの。ベリオがシューベルトの遺産に向き合い、継ぎ目には過去と現在の時空に霧がかかったような部分を生み、創造的な編曲を行っている。この古典的とも現代的とも言えるユニークな作品を、ミレニアル世代の鈴木がどのように現代に伝えるのか、期待は膨らむ。鈴木は、二人の作曲家と向き合い、新たなまなざしで作品の魅力に迫るだろう。

前半は、ベリオ作品と呼応するように、シューベルトの交響曲第4番「悲劇的」で始まる。作曲家としての自覚が芽生えたとされる19歳のシューベルトが、ベートーヴェンを意識して書いたとされる作品。鈴木は、古典派からの確かなアプローチが聴き取れそうだ。

2曲目は、世界的トランペット奏者のマティアス・ヘフスをソリストに迎え、オスカー・ベーメのトランペット協奏曲を披露する。ドイツで生まれ、ハンガリーとロシアで活躍したトランペット奏者・作曲家ベーメのロマン的な作品で、ヘフスの至芸をご堪能いただきたい。ヘフスの驚異的な技術だけでなく、温かく輝かしい音色、人間性あふれる音楽は、聴き手を熱くするだろう。

マティアス・ヘフス トランペット
MATTHIAS HÖFS, Trumpet

息をのむような美しい音色と完璧なテクニックを持つドイツの世界的名匠。19歳でハンブルク国立歌劇場管の首席トランペット奏者に就任。オーケストラの団員として活躍する一方、国際コンクールでの優勝など、数多くの音楽賞を受賞した。現在、世界最高峰のトランペット奏者として世界各地からソリストとして招かれている。彼のために作曲された作品も多く、幾つものCDをリリースしている。また、金管アンサンブル「ジャーマン・プラス」のリーダーとしても活躍。編曲者としての手腕も高く評価されており、CDには自ら編曲した曲も数多く収録されている。2000年からハンブルク音楽大学の教授を務め、客員教授としても各国の音楽大学に招聘され、数々の名トランペット奏者を輩出している。今回、読響に初登場。



©Sibylle Zettler

読売日本交響楽団 第598回 定期演奏会

2020年5月13日(水) 19時開演

サントリーホール 東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,600 / A ¥6,600 / B ¥5,600 / C ¥4,100

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。
■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合がございます。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017